

「M's Opinion」コンテンツ

▶国際関係・交流		
1	出会うことからすべてが始まるー現代版ツーリズムのスズメー	国際日本学部 専任講師 佐藤 郁
2	多民族国家「日本」への視座	商学部 教授 鳥居 高
3	ワールドカップ開催に沸くブラジルの光と影ー異文化を超えた相互交流のスズメー	商学部 教授 中林 真理子
▶人口・地域コミュニティ		
4	少子化問題を斬る	政治経済学部 教授 安藏 伸治
5	国土の周辺から日本社会を見る。地域が変わると、日本の社会が変わる。	商学部 教授 中川 秀一
6	人口減少・少子高齢化社会がはらむ問題解決のために ソーシャル・マーケティングで意識を変革せよ	政治経済学部 教授 木谷 光宏
7	人口減少社会と移民政策ー多文化共生社会の構築に向けてー	国際日本学部 教授 山脇 啓造
8	課題は地域にありー求められる自治体議会の改革と住民・行政の「協働」ー	政治経済学部 教授 牛山 久仁彦
9	緊急提言、人口減少社会に歯止めをかける	政治経済学部 教授 加藤 久和
10	人口減少社会における地域社会のあり方	法科大学院 教授 碓井 光明
▶経済政策・成長戦略		
11	誰もが生きやすい社会の構築に向けて	政治経済学部 准教授 飯田 泰之
12	東京オリンピック開催は、国力回復の起爆剤	専門職大学院 ガバナンス研究科 教授 市川 宏雄
13	アベノミクスを斬るー「三本の矢」は的を射るか、日本経済は再生するかー	専門職大学院 ガバナンス研究科 教授 田中 秀明
14	TPP交渉の行方を読み解く	農学部 准教授 作山 巧
15	消費税が抱える問題	専門職大学院 会計専門職研究科 教授 沼田 博幸
▶組織・企業・経営		
16	高信頼性組織とは何か	経営学部 教授 中西 晶
17	顧客と企業が協働して価値を生み出す	専門職大学院 グローバル・ビジネス研究科 教授 上原 征彦
18	国民皆簿記のすすめ	農学部 専任講師 本所 靖博
19	中小企業の成長発展のために	経営学部 教授 岡田 浩一
20	横行する個性、求められる社会の構成員としての個人	情報コミュニケーション学部 専任講師 竹中 克久
21	BOPビジネスが、日本を救う	経営学部 教授 大石 芳裕
22	金融機関の先進的リスク管理の落とし穴	総合数理学部 教授 松山 直樹
23	女性が変わる日本の未来	情報コミュニケーション学部 教授 牛尾 奈緒美
▶政治・自治		
24	政治学と情報通信政策の両面から世界を見つめて	情報コミュニケーション学部 准教授 清原 聖子
25	協働のガバナンスが、社会課題を解決する	専門職大学院 ガバナンス研究科 教授 源 由理子
26	“夕張ショック”はもはや過去の出来事か	専門職大学院 ガバナンス研究科 教授 兼村 高文
27	米国中間選挙を検証する	政治経済学部 教授 海野 素央
▶家庭・生活		
28	耳をすませばリアルな音が聴こえてくる	理工学部 准教授 上野 佳奈子
29	和食のスズメー加工食品が持つ有害性の恐怖ー	農学部 教授 長田 恭一
30	複合化する天災に備える	理工学部 教授 荒川 利治
31	虐待する心理、伝達される負の連鎖ートラウマ、PTSDへの心理的援助法ー	文学部 教授 高良 聖
32	いま、「終活」について考えるとき	法学部 准教授 小西 知世
▶情報通信		
33	人間と社会を繁栄させるICTの開発と利用	商学部 教授 村田 潔
34	進化するインターネット・セキュリティ	総合数理学部 教授 菊池 浩明
35	仮想通貨「ビットコイン」	商学部 専任講師 浅井 義裕
36	8K・スーパーハイビジョン時代がやってくる	総合数理学部 教授 鹿喰 善明
▶環境・エネルギー		
37	環境リスクにどう向き合うか	文学部 教授 寺田 良一
38	環境保全是企業に利益をもたらす	政治経済学部 教授 大森 正之
39	化石燃料ゼロ、CO2フリーの社会へ	総合数理学部 教授 田村 滋
40	地球温暖化時代のサステナブルな暮らし方とはーモンゴル遊牧民に学ぶー	商学部 教授 森永 由紀
▶憲法・法律		
41	異質な者を受け入れる社会へー少年法・厳罰化の動きをめぐってー	法学部 教授 上野 正雄
42	グローバル化する憲法	法科大学院 教授 江島 晶子
43	モノ言う株主の台頭	法科大学院 教授 河内 隆史
▶文化・歴史・社会		
44	文学が告げる自我の変遷。閉じた世界へ内向する「私」の行方。	文学部 准教授 伊藤 氏貴
45	排斥や格差の問題を防衛性という視点から考える	情報コミュニケーション学部 専任講師 脇本 竜太郎
46	日本発マンガ産業への提言 国際比較の視点から	国際日本学部 教授 藤本 由香里
47	富岡製糸場、世界遺産登録へ	商学部 教授 若林 幸男
▶教育		
48	数学とは、課題解決の道具である	総合数理学部 教授 砂田 利一
49	チャレンジすることで未来は拓けるーレトリック批評の現在と現代若者論ー	情報コミュニケーション学部 教授 鈴木 健
50	目的があれば英語は習得できる	政治経済学部 教授 マーク・ピーターセン